教科書歌唱教材における問題点について

―教育内容の系統性を検証する―

９２５１１Ｋ　　洲脇　範子

はじめに

「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」とよく言われる。つまり、教科書の楽曲は、学年ごとにおおまかな学習内容を想定してあげられている点では教材と言えるが、完全な教材とは言えない。その曲で教師が何を子どもに身につけさせたいのか考え、学習内容を設定することによって初めて教材が教材としての機能を果たすのである。これがいわゆる授業計画である。

さて、教師が授業計画を行うときにその基準となるのが学習指導要領である。現行の小学校学習指導要領によると「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽性の基礎を培うと共に、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養う。」と音楽科教科目標が記されている。興味的な観点、芸術的な観点が重視され、知識的な内容、技能的な内容がやや軽視されているように感じる。これはともすると知識や技能面中心の授業になってしまう学校音楽教育の反省とも考えられるが、私たちが思ったことを伝えたいときときに言語を媒体として話すように、音楽を形成する要素（例えば、リズム、旋律、ハーモニーなど）を認識できていなければ、音楽を感じることも、音楽を表現することもできない。では、知識や技能の詰め込み的な授業になることなく子供たちが、音楽活動の中で無理なく能率的にそれらを身につけていく方法はないであろうか。

本研究では小学校教科書歌唱教材について、それぞれの楽曲の指導目標をもとに知識技能的内容の抽出を行い学年ごとに発展的な系統性がみられるか検証する。

第一章　研究仮説の形成

第１節　小学校音楽科教育のねらいと問題点

１、小学校音楽科教育のねらい

音楽科教育の価値は、意図的な価値と随伴的な価値に分けられる。

【意図的な音楽科教育の価値】

・最高の芸術音楽に興味を持たせる

音楽はもともと人間のために、私たちの人生をより良くするために、存在しているものである。どれほど美しい音やメロディーであっても、それを美しいと感じることができなかったならば、その美しさは全く無意味なものになってしまう。子どもたちをその最高の芸術音楽に導くこと、また「音楽の美しさとは何か」「その美しさに感動するとは何か」を分からせることが、何よりも先行しなければならない。

・豊かな自己表現の手段としての音楽（非コミュニケーションの一つとしての音楽）

音楽とは自分が表現したいことを表現する手段として生まれてきたものである。どんな子どもにも自由な自己表現ができる機会を与えてやらなければならない。また人が音楽で表現したときにそれが分かる豊かな感受性も身につけてやらなければならない。

【随伴的な音楽教育の価値】

・より望ましい「美的人間像」の形成

より望ましい「美的人間像」の形成は、芸術的な情操や学問的情操、あるいは宗教的情操とか道徳的情操等の、程良いバランスにっよってもたらせるものである。従って芸術的情操の一つとして音楽は必要である。

・視野の拡大

Ｊ.マーセルは「精神的成長には、物事を正確に理解する力の発達と同時に、視野の拡大という結果が伴わなければならない。」と述べている。人生の全ての経験は、その知的背景が広く

なるにつれて、意義深いものになるのである。
・余暇の善用
週休二日制の導入によりますます余暇が増大している今日、音楽活動のような感情表現を豊かに盛り込んで、余暇を楽しみ新しい生活の活力を得るために音楽がどれほど大きな役割を果たすか期待は大きい。
・文化遺産の継承
一国の音楽文化というものは、その民族が長い歴史の生活経験を通して築き上げてきた、貴重な文化遺産とも言うべきものである。私たちは、その遺産を継承することによって祖先の心にまで触れ合えるのである。
２、小学校学習指導要領
小学校学習指導要領音楽科教育目標によると『表現及び鑑賞の活動を通して、音楽性の基礎を培うとともに、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養う。』
とある。つまり【表現及び鑑賞の活動を通して】これについては、音楽の授業は音楽の活動を通して行うべきであるという実践主義的内容として理解される。
【音楽性の基礎】【音楽を愛好する心情】【音楽に対する感性】【豊かな情操】
を養うことを目標として音楽の授業がなされているわけである。この目標を見ただけで、小学校音楽科がめざす教育が密度高く、質的にもかなりのものを要求されていることが理解される。
これらを先程の音楽科教育の２とおりの性質に置き換えてみると【音楽性の基礎】だけが意図的な価値であり、残りの３つは随伴的な価値に入るということが分かる。さらにこれらを、情意的目標と認知的目標に大別するならば、情意的な目標ばかりが突っ走っているといえる。Ｊ.Ｌ.マーセルは音楽教育を「それ自体が目的でなく手段である」と言っているが、現在の音楽科教育は明らかに「音楽による教育」の立場の考えに向かっていることが分かる。
３、小学校音楽科の問題点
現在の音楽科教育は、【音楽を愛好する心情】【音楽に対する感性】【豊かな情操】を養うという目標を６年間の音楽の授業で少しでも達成できているのであろうか。
決して満足のいく結果にはなっていないと思われる。音楽の授業が娯楽的な活動であったり季節と関連した歌を歌うことであったり、学校行事の準備をすることなどの見せかけ上の教育的価値しか持たない活動になっている可能性がある。注１
音楽の授業は、気晴らしや娯楽、休息を意味する『レクリエーション』recreationではなく再構造や改造を意味する『リクリエーション』recreationでなければならないのである。注２
また今日では人と音楽との間の溝はあまりにも狭くなっているといえる。マスコミュニケーションメディアの発達によって私たちはいつでもどこでも音楽に接していることとなった。だから、なにも学校で音楽を教えなくとも音楽をすることはできるのである。
さらに子どもたちをとりまく音楽環境は近年ますます複雑になってきていることが分かる。誰でも様々な類型の音楽を日々雑多に聴いているはずである。このような中で育った現代の子どもたちは感覚的には十分すぎるほどの素養を秘めているといえる。実際、ハーモニー感覚や、リズム感覚において十数年前と比べて音楽的能力のレベルが高くなっていることが現場の教師などによって認められている。注3 このような子どもたちに週２時間の音楽の授業で何が教えられるのであろうか。
学校はそもそも勉強したくない子どもたちと、勉強をどうにかして教えようとする教師とがいる異質な場所である。この２者の関係は普通では成り立たない。なぜなら演奏会や演劇の公演を想像すればその異質さが理解されよう。演奏会は演奏を企画し、聴く側と演奏をする側の間に両者の相互関係が成り立っている空間である。学校ではこの当たり前のことがおこりにくいという宿命を持っているといえる。
授業の３大要素は、授業を受ける『子ども』・授業をする『教師』・その２つをつなぐ『教材』の３つがあげられる。この『子ども』『教師』『教材』を３大要素とするならば『子ども』『教師』は生きた流動性のあるものであるのに対して、『教材』はともすれば固定的なイメージを持つものである。　しかし、反対にいえば『子ども』

注１　Ｒ．ダグラス．グリーア著　石井　信生訳：「音楽学習の設計」（音楽之友社　１９９０）
注２　小山　章三著：「合唱と教育と」（音楽之友社）
注３　教育音楽：　１１月号　（音楽之友社　１９９５）

『教師』は自由自在に日々変化するものであるが、『教材』は普遍性のあるものであるともいえる。
このことから、教材に根本問題があるのではないかと仮定できる。
第２節　音楽科教材について
１、理想の教材像
　教材とは教育材料の略であり、「教育目的達成の必要に応じ、子どもや青年に修得されるために選択された文化的教材」と定義される。注4 音楽科教材ならば「教師がある音楽的な能力、態度の育成のために、その楽曲で子どもに身につけたい学習内容を設定した楽曲のこと」注5 と定義されよう。
教材のあるべき姿について
・子どもの発達段階に即したもの
　これは子どもが例えば６歳でどのような段階にあるかということを意味しているのではない。子どもが音楽的な発達を遂げるうえで年齢に関係なく、学年に関係なくどのような段階にあるのか教師が理解し、その状態にあった教材を選ぶことをいっている。
　かといって学校教育においては、一斉授業に対応するものでなければならないため子ども一人一人の発達段階には応じた指導などできない。よって教科書はその基準を示しているという点で有効である。
・音楽作品として価値のあるもの
　オルフの楽器やピアノ教則本であるバイエルのように子どもの教育のためにかかれたもので音楽的に価値のないものでは、美しい芸術作品にふれさせているとはいえない。これは音楽会でバイエルを演奏する人はいないが６学年の共通教材にもなっている「ふるさと」は十分音楽会で演奏する価値のあるものであるということからも明らかである。
③子どもの音楽観の基礎を与えるもの
２、教科書教材
　教科書とは「教科過程の構成に応じて組織配列し、教授・学習の用に供せられる児童用図書」注6 と、『現代学校教育大事典』で述べられている。わが国の近代学校では、教材群の中で占める教科書の比重はきわめて重く、「教科の主たる教材」とされてきた。（教科書の発行に関する臨時措置法第２条）しかし昨今、教科書不要論や現代音楽の教材化がさけばれ、教科書の教育的立場はますます低くなっているといえる。
　現在、発行されている教科書は教育芸術社・東京書籍社・教育出版社・音楽之友社、の４社であるが、児童数の減少などの理由で来年の教科書改訂より音楽之友社の撤退するということが明らかになっている。また教科書の曲は改訂ごとに多少の入れ替えがあるとはいえ、めざましく変化する時代の流れに取り残されがちになっているといえる。
　それでは、現在ではもう音楽の教科書は価値のないものとして伏せてしまって良いのであろうか。
　音楽専科教師のいない場合、大部分の教師が学習指導要領に準拠した教科書を教材として教科書の内容を消化するという。また学校教育法では「小学校においては、文部大臣の検定を経た教科書用図書または文部大臣が著作の名義を有する教科書用図書を使用しなければならない。」と教科書の使用義務が定められている。
　学校教育における教材は様々な子どもたち全てにあうものでなければならない。子どもたちの生活環境は様々であるし、好みも異なっている。さらには性別差、能力差もある。これらの子どもたち全てにあうような教材は無味乾燥になってしまうことを免れないと考えられる。特に音楽科教育のようにオープンエンド方の授業であればなおさらである。
「学校唱歌　校門を出デズ」といわれて久しい。しかし学校唱歌が果たす役割はそれを学ぶことによって他の音楽を楽しむことができる能力を育てればよいのであって学校唱歌を一生涯歌い続けることを目的としていないのである。
　教科書会社も各社とも工夫を凝らし、「小学校１年生のおんがく」など低学年用教科書は特にページを一枚開けばカラーの絵がで埋め尽くされている。子供たちは音楽の授業についていかにも楽しいという印象を受けることであろう。ところがその子供たちの期待に反して音楽の授業が今一歩楽しいものにならないのは何故であろうか。

注４　五十嵐・太田・山住・堀尾編：「岩波教育小事典」（岩波書店）
注５　森脇　憲三著：「音楽教育の方法論」（全音楽譜出版社　１９７９）
注６　奥田　真大著：「現代教育学事典」（ぎょうせい）

第３節　教育内容の系統的位置づけについて

１、系統性のある指導体系

系統性という言葉はダーウィンの「個体発生は系統発生をくりかえす」という言葉で有名である。系統学習とは「知識や技術などを系統的体系に即して修得することを目指した学習形態」と定義できる。これは戦後の新教育運動の一つとして経験主義の立場からしだいに優勢になってきたものである。系統学習は学習の発展性、学習転移、レディネスなどの学習理論から説明がつく。学習の楽しさとは次々と新しい世界を知っていくことによって生まれるものと考えられる。また、新しく知った世界が生活やその他の場面で役立ったときにその喜びはさらに大きくなっていく。学習の発展性とは、各学年を通じてより深くより広くなるようにカリキュラムは構成されていなければならないということを意味するものであり、学習転移の立場は「から」説明が付く。レディネスの立場は○年だから○年の内容を与えれば良いというのでなく、前の指導内容が身に付いた上で教える必要があるという学習理論である。学習項目を全部やり終えたら、それで成果の総額が得られると思うのは根本的に間違っている。注7

２、音楽科教育における教育内容の系統的位置付け

数学や理科は知識の積み重ねといわれている。そこで、教科書も系統性のあるように位置づけられているはずである。しかし、音楽や美術のような教科はこれを学ぶことによって副次的に得られる情操教育としての立場が強く、積み重ねという観念が弱い。シーショアも「音楽的才能は単一の才能でなく才能の組織体である」と述べている。注8 音楽芸術の本質から考えれば、とうてい音楽構造の諸要素を抽出し学年別に系統づけるような方法によって音楽教育をおこなうことは不可能であるといえるかもしれない。

しかし音楽科の場合それぞれの学習内容はその時限りのものでなく、長い年月をかけて身についていくものである。１学年から６学年まで一様に発展させる教育計画でなければならない。かといって音楽的発達の途中に音楽の全ての側面に対する興味が平均して連続的に発達するなどということはありえない。注9 それは、教師が子どもの実態に合わせてどの部分をどのように補えばよいか吟味検討する必要がある。

音楽教育の過程では往復したり、交差したり、循環したりしながらすすめられる。つまりスパイラルに学習が展開していく姿が望ましい。

３、学習指導要領にみられる系統性

次に平成元年に改訂された学習指導書（音楽編）において系統性についてどのように書かれているのか見ていきたい。

第１章　『総則』第４　指導計画の作成に当たって配慮すべき事項には

（１）「各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。」注10

と述べられている。また、最終ページには各学年の目標及び内容の系統表も記されている。これらは明らかに音楽科においても系統性を重んじるべきであることを意味していると考えられる。　しかし平成元年の改訂によって、より子どもの実態にあった指導を行うということが強調され、２学年間まとめた形で教育目標が設定されることとなった。子どもの発達段階にあった指導をするということは何よりも優先されなければならない。しかしそれによって教育目標が各学年で曖昧になったまま授業が行われているケースがあるように考えられる。

第４節　仮説の形成

ここまで、現代の音楽科教育の実態と問題点を教材にその原因があるのではないかという方向で述べてきた。

音楽科教材の根本問題はどこにあるのか探るには、

・音楽学的な分析研究をすること
・教育学的な分析研究をすること

が必要であると考えられる。

音楽学的な分析研究とはこれまで主として使われてきた教科書教材についての分析研究である。ディヴィッド・ページはその著書『教育の

注７　Ｊ．Ｌ．マーセル著　美田　節子訳：「音楽的成長のための教育」
注８　福岡教育大学音楽科：「音楽科表現の指導」（音楽之友社　１９８２）
注９　浜野　政雄著　子どもと音楽　第２巻「子どもの生活と音楽」（同朋社　１９８７）
注10　文部省「小学校学習指導書」（教育芸術社　１９８９）

過程』で数学の教授について「教材を子どもたちが理解できる言葉で与えるということは、全くおもしろいことに、教える人自身が数学を知っていることを意味するのであり、よく知れば知るほどよく教えられるものである。」と述べている。注11 つまり、教える教師がその教材をどれだけ知っているかが楽しい授業をもたらすのである。

教育学的な分析研究とは音楽的能力の芽がどのように発生し育っていくのか発達段階を明らかにすることである。

これらの分析研究ををすすめていく上で以下のような仮説を形成する。

児童の発達段階に適応させながら、知識・技能的教育内容を系統的に発展させる授業計画によれば、児童は無理なく知識技能の基礎的能力を身につけることができる。

この仮説のもとに教材分析をすすめていきたい。

第二章　教科書歌唱教材分析

第１節　子どもの音楽能力の発達

音楽的能力についてJ. L. マーセルは『訓練によって発達させ、促進させることのできるすべての事項にゆきわたる（all-pervasive）能力である』と主張している。音楽能力も他の能力と同じく発達の段階があるといえる。

また供田武嘉津はその著書『書音楽教育学』で「児童期こそ、音楽的能力発現の最終のチャンスであり、そのことはまた、とりもなおさず、望ましい音楽陶冶にとっての最適の時期であることを示唆するものである。」と述べている。これは音楽能力はかなり低い年齢層で形成されるということを意味するものである。

しかし私たちが音楽的能力を体得していく過程はどのような段階を追っているのか、はっきりと説明した書物はない。特に幼児期以降のものになると、その数はより少なくなる。これは音楽的能力をどのように捉えるか研究者がそれぞれの立場で異なっていることも原因している。また、幼児期以前と比べて環境や遺伝による影響を大きく受けるということも原因していると考えられる。つまり発達の原理を音楽教育に適用するのは、複雑で多方面に関係する仕事であるのである。

およそ音楽の認知は未分化から分化へという方向性を持っていると考えられる。この場合、未分化とは音楽を音響と音の運動としての旋律やリズム、全体的なムードが一体となったものとして捉えることをいう。反対に分化とは音楽をつくっているそれぞれの構成要素が理解できるようになることをいう。私たちは子どもを音楽についてのナイーブな感動を失わないで、より分化した精密な曲の認知に到達させねばならないのである。

また、音楽能力の発達の段階を考えるときは、子どもの身体的、精神的発達の段階も考慮に入れなければならない。

鑑賞対象の変化

単純、具体的から複雑、抽象的へ
リズムから旋律・和声へ
調性から無調性へ
描写から純音楽へ
歌曲から器楽曲へ
単旋律から複旋律へ

鑑賞態度の発達

短時間から長時間へ
自己中心的から客観的へ
感覚的から内容的・形式的へ

第２節　音楽の基礎的内容の抽出

学習指導要領　各領域の内容は以下のように変遷してきた。

改訂年	領　域				
昭和２２年	音楽の要素に対する理解と表現	音楽の形式及び構成に対する理解	楽器の音色に対する理解	音楽の解釈	
昭和２６年	歌唱	器楽	鑑賞	創造的表現	リズム反応
昭和３３年	歌唱	器楽	創作	鑑賞	
昭和４２年	基礎	歌唱	器楽	鑑賞	創作
昭和５２年	表現	鑑賞			
平成元年	表現	鑑賞			

過去の学習指導要領の方が内容が細かく分けられていることが分かる。特に昭和２２年刊行のものは「音楽の要素」「形式」「音色」「解釈」という大変細かい要素別に表してある。

現行の学習指導要領は「Ａ表現」「Ｂ鑑賞」とに分類されているが「Ａ表現」の内容は以下のように抽出できる。

注11　小山　章三著：「合唱と教育と」（音楽之友社　１９８２）

（1）豊かな音楽活動をするための基礎となる聴唱や聴奏の能力について

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
①	範唱を聴いて演奏する	○	○	○	○	○	○
②	階名唱	○	○				
③	模唱	○	○				
④	暗唱	○	○				
⑤	視唱			○	○		
⑥	ハ長調を識別			○	○		
⑦	ハ長調とイ短調の違いを識別				○		
⑧	ヘ長調を識別					○	○
⑨	ヘ長調とニ短調の違いを識別						○

（2）楽曲全体に流れる気分を感じとったり、音楽の構成要素を感じとっ
たり、また歌詞の内容を想像したりして、音楽を工夫して表現することについて

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
①	情景や気持ちを想像する	○	○	○	○	○	○
②	曲の仕組みを理解する					○	○
③	拍の流れ、基本的なリズムを感じ取る	○	○	○	○	○	○
④	フレーズを感じ取る	○	○	○	○	○	○
⑤	強弱の変化に応じる					○	○
⑥	速度の変化に応じる					○	○
⑦	伴奏の響きを聴く	○	○				
⑧	音の重なりを感じ取る			○	○	○	○
⑨	互いに声を聴き合う	○	○				
⑩	和声の響きを感じ取る					○	○

（3）音楽の表現に必要な演奏技能について

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
①	自分の発声に気を付ける	○					
②	発声に気を付ける	○	○	○	○		
③	呼吸に気を付ける			○	○		
④	頭声発声をする			○	○	○	○

これらの学習指導要領の内容から小学校音楽科において主に学ばせたい音楽的能力を次のように設定する。

〇表現の技能面に着目した要素

フレーズ感・速度感・強弱感・音色感・発声・レガート、マルカート

〇楽曲の構成面に着目した要素

調性感・拍子感・リズム感・旋律感・和声感・形式感

〇楽曲の構成に着目した要素

曲名・作曲者・作詞者・歌詞の内容・演奏形態

第３節　分析の方法

１、分析１・楽曲のもつそのものの構成要素の分析

はじめに教科書に盛り込まれている曲そのものの構成要素を抽出し、学年ごとに発達が見られるかどううかを検証することにした。教科書の改訂ごとに学年間で取り扱っていた楽曲が移動している。例えば算数等の教科ならば小学校６年間で明らかに発達がみられる。しかし、音楽の教科書を見ると１年生のものから６年生のものまで一見しただけでは差がそれほど感じられない。そこで１年から６年までの教材の難緯度の差はどれほどのものか、数値で確認することにする。

取り扱った教科書は「教育芸術社」「東京書籍」「教育出版社」である。「音楽の友社」発行の教科書は平成８年度の教科書改訂により音楽之友社が撤退するということを理由に今回取り扱わなかった。

今回特に歌唱教材に限って分析を行った。これは『音楽は歌うことから始まったのである』という音楽の起源からみても初等教育音楽科においてうたうことを特に重んじるべきであるという節によるものとする。

さて楽曲の構成要素であるがこれは【拍子・調・速度・形式・演奏形態・音域】の６つの要素について取り上げるものとする。

２、分析２Ａ・教材に盛り込まれている教育内容の教材とはその楽曲で教えたい教育内容が盛り込まれたものをいう。つまりある楽曲を教材化することによって子どもの実態にあわせた教材になるわけである。分析１では楽曲の持つ性質をいったに過ぎない。よって次に、それぞれの楽曲においてどのような内容を教えたいのかということに注目して分析を行う必要があると考えられる。

学習指導要領による内容の中から小学校音楽科で身につけさせたい音楽的能力として次の１１項目を主な教育内容として挙げることとする。

【旋律・和声・速度・強弱・形式・調・記号・拍子・リズム・発声・イメージ】

教科書用指導書に書かれている言葉でそれがこの１１項目のどれに最も近いか一つ一つの楽曲について分類を行った。分析２.A次にそれらをそれぞれの楽曲の教育目標と照らし合わせ教育

目標に合致しているかどうかの検証を行った。
分析２.B
取り扱ったのは最も採択部数の多い教育芸術社の１年～６年までの教科書ならびに教科書用指導書とした。
この方法により指導内容が各項目において一様に系統立って発展が見られるのかを検証する。

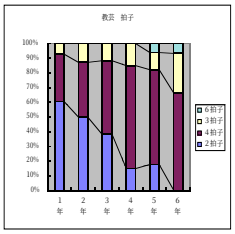
第三章　分析の結果と考察

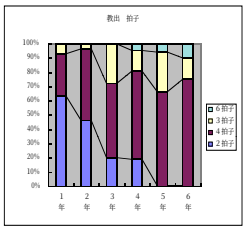
第１節　分析１の考察

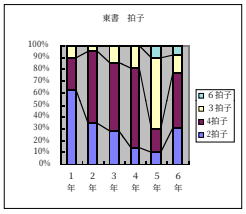
１、拍子について

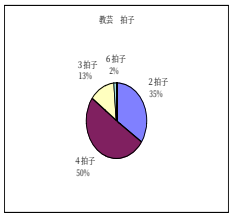
一部を除いていえることは、学年が上がっていくに従って２拍子の曲が減少し４拍子の曲が増加していること。複合拍子である６拍子の曲は４学年以降になって２、３曲入ってくるのみに留まっていることである。また、３拍子の曲は各学年間でほぼ等しくなっている。教育芸術社の拍子の出現表が最もきれいにこれらが表れている。

低学年で２拍子の曲が圧倒的に多くみられるのは、原始音楽において、２拍子の曲が最も普通の形であったこと、また２拍子は人の足の歩みに基因していることからも、発達段階上適していると考えられる。









（教芸１学年から６学年の曲を総合したもの）

２、調について

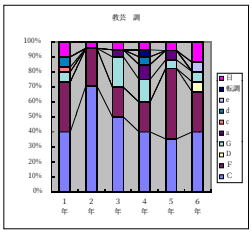
調性は西洋の音階であるか日本の音階であるかという分別、さらには西洋の音階であれば長調（major）であるか短調（minor）であるかという分別、何調であるかという分別ができる。

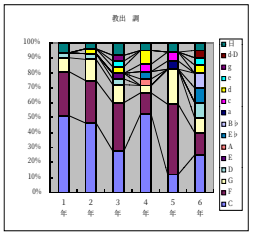
まず西洋の音階であるか日本の音階であるかという問題だが、圧倒的に西洋の音階の曲が多いことが分かる。「我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成」を唱えながらも、日本の音階の曲は１０％を切っている。子供たちの音楽環境からみても日本の音階の調性感は育ちにくいといえる。さらに多くの日本の音階の曲を取り上げるべきである。

次に西洋の音階の長調か短調かという問題である。３社ともに言えることは、長調の曲が全体の 60%以上を占めているということである。長調の曲が圧倒的に多く入ってきていることを説明するには、発達上の理由を考えるより音楽の歴史をたどらなければならない。伊沢修二が『小学唱歌」編集の際、「短音階の曲は軟弱、憂鬱、不健康でふさわしくないから、長音階の曲を中心とすべし』といってのけたというエピソードが残っている。
つまり伊沢修二が初めて音楽の教科書を作成したときのなごりが現在まで残っているといえる。

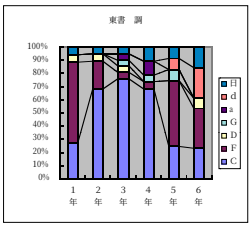
調性についても様々な議論があるが、調性とは音階から生じたものでなく音楽そのものから生まれたものと考えるならば、調性の意味は音階や音楽理論を学ぶ前に、早くから感じ取らせておく必要がある。

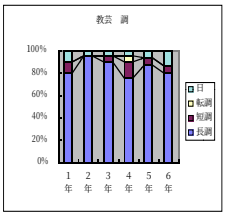
ちなみに最も様々な調子を取り上げている教科書は教育出版社であり、ハ長調から始まり14種となっている。





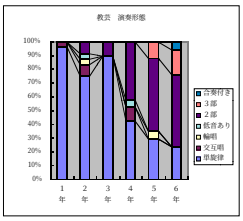
洲脇範子

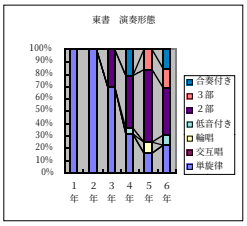


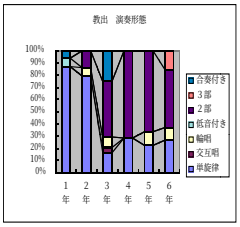


３、演奏形態について

段階を追って単旋律のものから２部、３部と複雑な形になっていっていることが分かる。これは単純から複雑への流れにそっているので発達の段階にあっているといえる。







４、音域について

声域は２歳から９歳まで年齢に比例して広がっていくと考えられている。

すなわち１学年から６学年まで音域は広がっていくものと想定できる。音域を表した表によると１学年のものと６学年のものを比較すると差異が見られることが確認できる。特に上限の差が顕著に表れている。

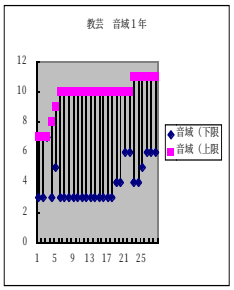
シャーマンの研究によれば・本来の調を好むものは７歳から17歳までの各年齢層の子どもの半数以下で、短３度低くした歌の方を好むものは各年齢層の大部分・短３度高くした方を好むものは各年齢層とも極めて少数という。 また、Mary Haller（1932）によれば高くて大きな音は、低くて柔らかな音よりも不安感を起こさせるということが分かっている。

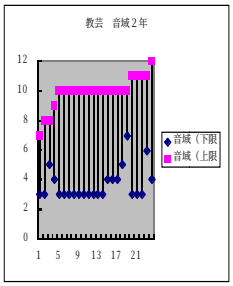
このことから、特に上限の方が低学年では低く高学年では高くなっていることは発達上適しているといえる。

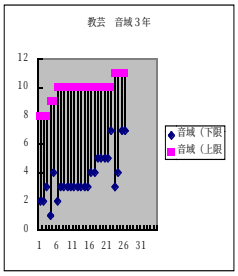
現在の学習指導要領には音域の基準は記されていないが昭和43年のものには各学年について次の声域を基準としていた。２学年間では変化は見られないが、学年を追って上限も下限も増えていっていることが分かる。

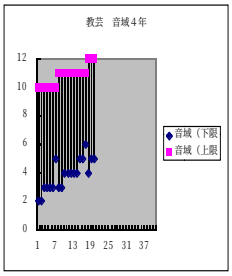
１学年	ｃ（Ｂ）～ｃ’（ｄ’）
２学年	ｃ（Ｂ）～ｄ’（ｅ’）
３学年	Ｂ～ｅ’
４学年	Ｂ～ｅ’
５学年	Ｂ♭～ｅ’（ｆ’）
６学年	Ｂ♭（Ａ）～ｅ’（ｆ’）

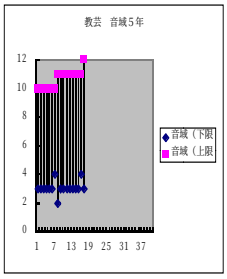
（昭和 43 年　学習指導要領より）

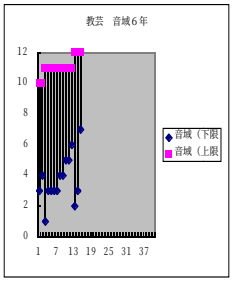












５、速度について

歌の速度はメトロノーム記号（♩＝104）で日本古謡、わらべうた等の日本旋律を除く各楽曲に記されてある。速度記号の理解は小学校指導書によると第６学年になって初めてでてくるのでそれまでの５年間は記号の意味は知らずに過ごすこととなる。この記号を拍子記号と同じように楽譜になくてはならないものと捉えることもできるが、１学年から６学年までの全ての曲に記す必然性は乏しい。

１学年から６学年まで速さに関する差はみられなかった。

６、音色について

音高模唱の発達について研究した井上(1974)は、楽器やテレビなどの物的環境よりも親や兄弟のような人的環境である人の声の方が、子どもに与える影響が強いということを証明した。 これは人の声で「うたう」という行為が最も発達の初期に行われるべきであることを意味する。つまり歌うことから入る音楽科は発達段階に合ったものであると言える。

しかし、幼児から小学校中学年ごろまでは騒音を楽しむ時代であるとも言える。広い音色に対する完成を育てる意味でも、段階を追って様々な音色に触れさせるようにしたい。

第２節　分析２の考察

１、.題材目標と楽曲目標

音楽や美術のような教科は数学のような教科と異なりある一つの目標に向けて直線的に結びつけることのできる教科ではない。ある種の同じ様な経験をその扱いと程度を螺旋的に高めていこうとするものでなければならない。螺旋的とは教師が子どもの発達に合わしてどの部分を補えばよいか設定し、発展さしていく方法である。

教師がある楽曲で何を学ばせたいのか設定するわけであるが、この基準となるのが学習指導要領であり、教科書出版会社が同時に出版している教科書用指導書である。よってこれらにどのように目標が設定されているのか調べてみた。

次頁が各学年の教科書に記されている主題目標と楽曲目標である。

主題目標は旋律に関するもの、リズム、和声、歌詞、音色や響きに関するものと分けられ学年ごとに発展した形で系統化して記されている。これは各社とも同じである。しかし、楽曲そのものの目標となると発展性があるとはいい難い。また題材目標では比較的具体的に何を学びとるのか書かれているにも関わらず、楽曲の目標となれば抽象的な表現が多くみられる。

例えば１学年では目標の中に『あそびましょう』または『あそびながら』という言葉や『たのしく』などの心情を表すことばが入っているものが、半数を占めている。この目標からは児童が何を目標に音楽の授業を受ければよいのか、明確に見えてこないと思われる。「楽しく歌う」ということについて小山章三は、その著書『合唱と教育と』で次の３つの達成事項をあげている。一つめは「その音楽を良く知ること」。二つめは「正しい技術を身につけること」。三つめは「全身全霊で音楽をすること」である。そしてこの三つめの「全身全霊で音楽すること」は「音楽を良く知ること」と「正しい技術を身につけること」によって成り立つというのである。

無理にがんばって『たのしく』するものではない。音楽をした結果が楽しくなるように教師が努力しなければならないのである。

また、４学年で「三拍子を感じて歌いましょう」と記された目標が６学年で「三拍子にのってのびのびと歌いましょう」と変化するだけで、言葉のニュアンス的なものの差しか見受けられない。

これらは教科書に表記されたものだけについてであるので、教師がどのような教育内容を設定するかによって、大幅に目標は異なってくるものである。逆にいえば、授業者がどのような教育内容でも設定できるように柔軟性を持たし

てあると言う意味ではこのような形にしか成りようがないともいえる。

音楽科教育において系統学習の方法で行うことが、音楽そのものの性質を考えれば非常に困難であることは先程述べたが、それを一層困難なものにしているのにはこの目標の曖昧性が関係していると考えられる。学習が成立するということは学習する前には出来なかったことが、学習した後には出来るようになっていることをいう。児童が学習したことを実感できる時は、児童自身が何を学んだのか理解できる学習目標がしっかりしている時であると考えられる。この点において、もう一度目標というものの存在について考え直さなければならない。

２、内容について

第二章で分析の方法を述べたが、それぞれの要素ごとに出現した状況を表したものが【表】である。ここで注意しておかなければならないのは、言葉が持つ曖昧性である。ニュアンスの違いでいろいろな意味に取れるものがある。一つの言葉について２通りの要素があると考えられるものについてはそれぞれの要素について記述することとした。例えば「曲の最後はゆっくりと」という内容であれば速度の項目と形式の項目の両方に取り上げた。

強弱や速度に応じる能力は学習指導書によれば高学年から出現することと記されていた。しかし、この分析によれば低学年からその内容が表れていることが分かる。つまり強弱記号やメトロノーム記号の概念を習うのは、学習指導書どうり高学年になるまで待たねばならないが、歌唱の指導において強弱感や速度感を養う教育が既に低学年からなされているということである。

反対に低学年では全く表記されていないものもあった。形式感と調性感に関する記述である。これらの感覚を育てるのはやはり中学年もしくは高学年を待たねばならないことが分かる。次に要素別に見ていくこととする。

・和声に関すること

和声感を養う項目はまず伴奏の響きを聴くという行為から入って、何かの楽器で対旋律を演奏する過程から２声３声の演奏、合奏唱へと移っていくという経緯をたどっている。

・リズムに関すること

リズムが先かメロディが先かの議論はあるものの一般的に幼児から小学校低学年頃の発達段階が最もリズム教育に適した年齢として位置づけられている。これを受けてリズムに関する記述は低学年で多くなっている。学校唱歌は音痴であると林光は述べている。

・速度に関すること

速度は曲全体の速さを表すものと、曲の部分で変化させるものと二つの表示に分かれる。「最後はゆっくりと」のように曲のまとまりを感じる記述が４，５曲みられただけであった。

日頃私たちが歌う時、どのくらいの速さで演奏すべきかは特に何の話し合いもなく歌われることが多い。

・強弱に関すること

強弱に関して書かれてある項目は次の６つに分類される。歌詞の内容から強弱感を感じ取るもの、範唱で示すという形のもの、主旋律とのバランスに関するもの、エコーフレーズ、記号を見て表すというもの、曲の山を感じて示すという形のものである。

教育指導書に５年で<（クレッシェンド）、>（デクレッシェンド）６年でｆ、ｍｆ、P、mP　の記号を理解するという内容が書かれてあるのを受けて、５、６年から急にこれらの記号が表記されるようになっている。

音の大きさの差の弁別力は比較的早くに現れる。

テンポの揺れとダイナミックスの揺れでは、ダイナミックスの揺れの方が聞き手の心を揺さぶるということが実験（前田圭子１９９５）によって明らかになった。このことからも、もっと強弱感に関する感覚を養う項目を増やすべきであると思われる。

・調に関すること

学習指導書によれば、３学年でハ長調、４学年でハ長調とイ短調の識別、５学年でヘ長調、６学年でヘ長調とニ短調の識別が内容として取り上げられている。ところが調性感に関する記述は低学年はもちろん各学年ともほとんど見られなかった。単元目標が調に関する項目でさえ「短調と長調の感じの違いを感じ取って」とか「短調の響きを感じ取って」等の内容に限られている。つまり短調か長調かという問題にはふれてあるが何調であるかということにまではふれられていないということが分かる。

・記号に関すること

小学校指導書第４章　指導の計画と各学年にわたる内容の取り扱い（６）に「音符、休符及び記号などの指導については、取り上げる教材などとの関連上必要な場合には、配当学年を変更して取り扱うことができること」と述べられている。しかし

スタッカートの記号は１学年『しろくまのじぇんか』より表れている。これについてはスタッカートの意味の説明は特に表記されていない。D.C. Fine.の表記もここでででできているが、(　) づけで意味の説明がなされている。

３学年教材名『うさぎ』でスラーの記号が表記されている。教育芸術社の教科書ではスラーが楽譜上にかかれるのはここが初めてである。記号の説明はない。

・発声に関すること

学習指導要領によれば頭声的発声は第３学年から導入されることとなっているが、それを『頭声的発声』とは記さず「気持ちを大切にした声」などの柔らかい言い方になっている。特に低学年ではその傾向が強い。

・イメージに関すること（歌詞の内容から）

メロディーの知覚はメロディーの大体の形から分化した形にという方向性を持っているということは前章で述べた。このメロディーの大体の形を知覚するためにイメージ化は有効であると考えられる。この項目には歌詞からどのようなことをイメージするのか、どのような手段でイメージ化を図るのか記述されている言葉を拾い出した。

歌詞の内容からのイメージ化が多くなされている。低学年においては表題そのもののイメージを身体表現などを伴う形ではかる記述になっている。さらに１番と２番の歌詞内容の違いをイメージして等の記述が多くなる。中学年になると例えば「さくらの花を散らしてしまわないように」などの表現や「『飛べ飛べ、鳴け鳴け』と『飛ぶ飛ぶ、鳴く鳴く』のイメージの違い」など文学的な内容にまでに至っていることが分かる。高学年では低学年ほど記述がなかったが、教師が適時取り上げるべきである。

教芸　１年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	速度	音域（下限	音域（上限	旋律
1	1	ひらいたひらいた	日	2	単旋律		54	58	e	d’	
2	1	ちゅうりっぷ	F	2	単旋律	3	84	92	f	d’	
3	1	めだかのがっこう	C	4	単旋律	1	108		c	c’	
4	1	おちゃらかほい	日	2	単旋律	1			g	b	
5	1	だるまさん	日	2	単旋律	1	92	100	e	b	
6	1	けんけんぱ	C	2	単旋律	1	108	116	d	c’	
7	1	じゃんけんぽん	F	2	単旋律	3	108	116	c	c’	
8	1	ことりのうた	C	4	単旋律	1	96	104	c	c’	
9	1	ぶんぶんぶん	F	4	単旋律	3	96	104	f	c’	
10	1	ぱすぱすはしる	C	2	単旋律	1	100	108	c	c’	
11	1	かたつむり	C	2	単旋律	1	92	100	c	c’	
12	1	たなばたさま	F	2	単旋律	1	108	116	c	c’	
13	1	うみ	G	3	単旋律		88	100	d	d’	
14	2	すずむしのでんわ	C	4	単旋律	1	108	116	c	c’	
15	2	ひのまる	F	2	単旋律		100	108	f	d’	
16	2	とんくるりんぱんくるりん	C	3	単旋律	3	126	138	d	c’	
17	2	ぞうさんのさんぽ	F	2	単旋律	1	92	100	f	c’	
18	2	きらきらぼし	C	4	単旋律	1	104	112	c	a	
19	2	タンブリンのわ	C	4	単旋律	1	112	120	c	c’	
20	2	たきび	C	2	単旋律	2	92	100	c	c’	
21	2	べんぎんさん	F	2	単旋律	1	104	112	c	c’	
22	2	おしょうがつ	F	4	単旋律	1	104	112	c	c’	
23	3	三びきのこぶた	F	2	単旋律	1	108	116	c	c’	
24	3	もりのくまさん	C	2	交互唱	1	112	120	c	c’	弱起
25	3	こいぬのマーチ	C	4	単旋律	1	96	108	c	a	
26	3	ふしぎなぽけっと	G	2	単旋律	1	96	108	d	d’	
27	3	うれしいひなまつり	c	2	単旋律	1	76	88	c	c’	
28	3	そろそろはるですよ	F	4	単旋律	1	100	108	f	d’	

教芸　２年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	速度	音域（下限	音域（上限	旋律
1	1	手と手であいさつ	C	4	単旋律		116	126	d	c’	
2	1	かくれんぼ	日	2	単旋律		108	116	d	b	
3	1	かっこう	C	3	単旋律	3	112	120	c	g	
4	1	かえるのがっしょう	C	4	単旋律				c	a	
5	1	シャボンだま	C	2	単旋律		72	80	g	c’	
6	1	ぞうさんとこりす	F	2	単旋律		108	116	c	c’	
7	1	ともだちのうた	C	2	単旋律	2	108	116	c	c’	
8	1	山びこごっこ	C	4	交互唱	1	108	116	d	c’	
9	1	木のはのゆうびん	F	4	輪唱		100	108	d	c’	
10	2	虫のこえ	C	2	単旋律		76	84	c	c’	
11	2	あさの小とり	F	2	単旋律		100	108	c	c’	弱起
12	2	ジャングルジム	F	2	単旋律		116	126	e	a	
13	2	山のボルカ	C	2	単旋律	1	92	100	e	c’	
14	2	夕やけこやけ	C	2	単旋律	2	72	84	c	d’	
15	2	小ぎつね	C	2	単旋律	1	100	108	c	c’	
16	2	きくの花	C	3	単旋律	1	108	116	c	d’	
17	2	おむすびころりん	C	4	単旋律		120	132	c	c’	
18	2	あわてんぼうのサンタクロース	F	2	単旋律		104	112	f	d’	弱起
19	3	なかよしマーチ	C	4	単旋律	2	132	144	c	c’	
20	3	たぬきのたいこ	C	3	単旋律	2	120	132	c	c’	
21	3	こぐまの二月	C	4	合奏付き	1	108	116	c	c’	
22	3	はしの上で	F	2	二部	3	100	108	c	c’	
23	3	春がきた	C	4	三部	1	112	120	d	e’	
24	3	春っていいね	C	4	交互唱	1	100	108	c	d’	

洲脇範子

教芸　3年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	速度	音域（下限	音域（上限	旋律
1	1	ドレミの歌	C	2	単旋律		116	126	c	c’	
2	1	春の小川	C	4	単旋律		100	108	c	c’	
3	1	いもむしごろごろ	日	2	単旋律				B	a	
4	1	雨こんこん	日	2	単旋律				B	a	
5	1	ゆかいなまきば	G	2	単旋律		96	104	d	b	
6	1	夕やけ	日	4	単旋律	1			a	b	
7	1	花をおくろう	C	2	単旋律	1	112	120	c	a	
8	1	茶つみ	G	4	単旋律	2	100	108	d	d’	
9	1	ごろすけホーホー	a	4	単旋律		100	108	g	c’	
10	1	ゆかいな木きん	C	2	単旋律	2	100	108	c	c’	
11	1	かえるのぴょんた	C	4	単旋律		116	126	e	c’	
12	2	うさぎ	日	2	単旋律				d	c’	
13	2	かりかりわたれ	日	4	単旋律				e	c’	
14	2	こねこと小鳥	F	4	二部	1	112	120	c	d’	
15	2	ふじ山	C	4	単旋律		92	100	c	c’	
16	2	あの雲のように	G	3	単旋律	1	58/	63/	g	d’	
17	2	かぼちゃ	C	4	単旋律		100	108	c	c’	
18	2	歌えリコーダー	C	4	二部				e	c’	
19	2	あわてんぼうの歌	C	2	単旋律		112	120	B	c’	
20	2	いるかはざんぶらこ	G	3	単旋律		138	152	d	c’	
21	2	夕日	日	4	輪唱		104	112	d	d’	
22	3	おぼけなんてないさ	F	4	単旋律	2	104	112	c	c’	
23	3	おかしのすきなまほう使い	F	4	単旋律	2	116	126	c	c’	
24	3	雪のおどり	C	2	単旋律	2	84	92	e	c’	
25	3	山の音楽家	F	2	単旋律		92	100	c	c’	弱起
26	3	さよなら	G	3	二部	3	92	100	g	d’	
27	3	春のまきば	C	4	単旋律		116	126	c	c’	

教芸　4年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	速度	音域（下限	音域（上限	旋律
1	1	歌うよ春を	C	4	二部		108	116	e	d’	
2	1	さくらさくら	日	4	単旋律		72	80	B	c’	
3	1	とんび	C	4	笛付き	2	88	96	c	c’	
4	1	アマリリス	C c	4	二部	ロンド	100	108	c	c’	
5	1	山の朝	F	3	単旋律	2	104	112	c	c’	
6	1	まきばの朝	C	4	二部	2	126	138	c	d’	
7	1	みんなのゆめを	C	4	二部	2	120	132	e	c’	
8	2	いろんな木の実	G	4	二部		120	132	B	c’	
9	2	おどろう楽しいポーレチケ	C	3	二部	1	126	138	e	e’	
10	2	もみじ	F	4	二部	2	88	96	c	d’	
11	2	地球はぼくのにわ	C	4	単旋律	2	116	126	d	d’	
12	2	雨の公園	C	4	輪唱		104	112	e	e’	
13	2	茶色の小びん	C	4	単旋律	2	132	144	e	d’	
14	2	音のカーニバル	F	4	単旋律		126	138	f	d’	
15	2	まいごのこひつじ	a	2	輪唱	2	100	108	d	d’	
16	3	ちびっこカウボーイ	F	2	単旋律		108	116	d	d’	弱起
17	3	つるのおん返し	a	4	単旋律		66	72	c	c’	
18	3	冬の歌	G	2	二部		108	116	d	d’	
19	3	線路はつづくよどこまでも	G	4	二部		116	126	d	e’	
20	3	ティンティララ	d	3	単旋律	3	116	126	d	d’	

教芸　5年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	速度	音域（下限	音域（上限
1	1	春の風	C	4	二部	2	126	138	c	d’
2	1	こいのぼり	F	4	単旋律	2	92	100	c	d’
3	1	夕日はルラルラ	C	3	単旋律	2	96	104	c	d’
4	1	口ぶえふいて	C	2	二部	2	108	116	c	d’
5	1	こげよマイケル	C	4	三部		120	132	c	c’
6	1	静かにねむれ	C	4	単旋律		84	92	c	c’
7	1	ゆかいに歩けば	C	2	二部	2	116	126	c	e’
8	1	キャンプの夜	F	4	単旋律	2	104	112	d	c’
9	2	だれも知らない	F	4	二部	2	92	100	c	d’
10	2	林の朝	F	4	輪唱		104	112	c	c’
11	2	星の世界	F	4	三部	2	76	84	c	c’
12	2	まっかな秋	F	4	二部	2	112	120	B	d’
13	3	冬げしき	F	3	二部	2	92	100	c	d’
14	3	スキーの歌	G	4	二部	2	112	120	d	d’
15	3	かさじぞう	a	2	単旋律	2	76	84	c	c’
16	3	ゆかいなゆめ	F	6	二部	2	69/	76/	c	d’
17	3	子もり歌	日	4	二部				c	c’

教芸　6年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	速度	音域（下限	音域（上限	旋律
1	1	青空へ登ろう	C	4	二部	2	116	126	d	d’	
2	1	おぼろ月夜	C	3	二部	2	76	84	c	c’	弱起
3	1	エーデルワイス	C	3	二部	3	112	120	e	d’	
4	1	アンデスの祭り	e	4	対旋		92	100	g♯	e’	
5	1	こきょうの人々	C	4	単旋律	2	80	88	c	d’	
6	1	それは地球	C	4	二部	2	116	126	d	c’	
7	1	われは海の子	D	4	単旋律	2	116	126	a	d’	
8	1	かいがらの歌	C	4	二部		84	92	e	d’	
9	2	夢をのせて	F	4	二部	2	104	112	c♯	d’	弱起
10	2	小さな木の実	G	6	二部	2	66	72	d♯	d’	
11	2	ふるさと	F	3	三部	2	80	88	c	d’	
12	3	越天楽今様	日	4	合奏付き		76	84	B	e’	
13	3	こきりこぶし	日	4	二部		88	96	f	d’	
14	3	勇気一つを友にして	F	3	二部		112	120	c	d’	
15	3	さよなら友よ	F	4	二部		88	96	c	e’	弱起

東書　1年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	速度	音域（下限	音域（上限
1	1	ひらいたひらいた	日	2	単旋律				e	d’
2	1	おはながわらった	F	2	単旋律	1	72	80	c	c’
3	1	かもつれっしゃ	F	4	単旋律		132	144	f	d’
4	1	ぶんぶんぶん	C	2	単旋律	小3	108	116	c	g
5	1	ちゅうりっぷ	F	2	単旋律	1	88	96	f	d’
6	1	かたつむり	C	2	単旋律	1	88	96	c	c’
7	1	きらきらぼし	F	4	単旋律	小3	100	108	f	c’
8	1	うみ	G	3	単旋律		84	92	d	d’
9	2	ぞうさんのさんぽ	F	2	単旋律		92	100	f	c’
10	2	おおきなくりのきのしたで	C	2	単旋律	小3	104	112	c	c’
11	2	あめふりくまのこ	D	2	単旋律		92	100	B	d’
12	2	ひのまる	F	2	単旋律	1	104	112	f	d’
13	2	おうま	C	4	単旋律		108	116	c	d’
14	2	ぞうさん	F	3	単旋律		80	88	c	d’
15	2	にわとりポルカ	C	2	単旋律	3	108	116	e	c’
16	2	おおきなわ	F	2	単旋律	1	96	104	f	c’
17	3	じゃんけんぽん	F	2	単旋律	1	104	112	c	d’
18	3	ばななのくに	F	4	単旋律	2	138	152	f	d’
19	3	おとのマーチ	F	4	単旋律		116	126	c	c’

東書　２年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	速度	音域（下限	音域（上限	旋律
1	1	アイアイ	C	4	単旋律	2	116	126	c	d’	
2	1	この山ひかる	C	2	単旋律	2	116	126	c	d’	
3	1	あかるい山びこ	C	2	単旋律	小3	96	104	f	d’	
4	1	かくれんぼ	日	2	単旋律	1	108	116	d	b	
5	1	大きなうた	F	4	単旋律	1	144	160	c	d’	
6	1	くじらの赤ちゃん	C	4	単旋律	1	108	116	f	c’	
7	1	ちくだ	C	3	単旋律	1	92	100	d	c’	
8	1	かえるのがっしょう	F	4	単旋律	1	116	126	f	d’	
9	2	山びこごっこ	D	4	単旋律	1	116	126	d	c’	
10	2	虫のこえ	C	4	単旋律	1	76	84	c	c’	
11	2	夕やけこやけ	C	2	単旋律	2	76	84	c	d’	
12	2	あわてんぼうのうた	C	2	単旋律	2	96	104	B	c’	
13	2	あの青い空のように	F	4	単旋律	1	138	144	c	d’	弱起
14	2	ねこふんじゃった	C	4	単旋律	1	132	144	e	c’	弱起
15	2	白い町	C	4	単旋律	1	120	132	c	d’	弱起
16	3	ふしぎはかせの大ほつめい	C	2	単旋律	2	104	112	c	c’	
17	3	ポポポルカ	F	2	単旋律	2	104	112	f	d’	
18	3	わくわくむずむず	C	4	単旋律	2	112	120	g	c’	
19	3	春がきた	C	4	単旋律	1	112	120	d	e’	

東書　３年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	速度	音域（下限	音域（上限	旋律
1	1	春の小川	C	4	単旋律	2	100	108	c	c’	
2	1	茶つみ	G	4	単旋律	1	100	108	d	d’	
3	1	この山光る	C	2	単旋律	2	116	126	B	d’	
4	1	手をつなごう	C	3	二部	1	96	104	e	d’	
5	1	みずすまし	C	2	単旋律	1	104	112	g	e’	
6	1	ふけるぞソラシド	C	4	二部	3	126	138	e	c’	
7	1	こぼと	C	4	単旋律	1	108	116	g	c’	
8	1	空のワルツ	D	3	二部	2	54/	60/	B	d’	
9	2	うさぎ	日	2	単旋律	1			d	c’	
10	2	サイクリングヤホホ	C	2	単旋律	2	92	100	e	d’	
11	2	夕日の花	C	3	単旋律	1	120	132	g	d’	
12	2	太平洋がわらったら	F	4	二部	1	138	152	d	d’	
13	2	すてきな日になれ	C	4	二部	1	120	138	e	c’	弱起
14	2	空とぶ子ねこ	C	4	単旋律	1	126	138	g	c’	弱起
15	2	ガタゴトほろ馬車	C	4	輪唱	1	92	100	e	c’	弱起
16	2	ふえはおどる	C	4	単旋律	1	126	138	e	d’	
17	2	はさみとぎ	C	2	単旋律	1	104	112	e	c’	弱起
18	3	ジェンカでおどろう	a	4	単旋律	3	120	138	c	c’＃	
19	3	ふえがよんでいる	C	4	単旋律	1	120	132	d	c’	
20	3	ふじ山	C	4	単旋律	2	96	104	c	c’	
21	3	ドレミの歌	C	2	二部	1	120	132	c	c’	

東書　４年

学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	速度	音域（下限	音域（上限
1	さくらさくら	日	4	単旋律		72	80	B	c’
1	てるてるぼうず	日	2	単旋律				g	d’
1	パフ	C	4	二部		120	132	e	c’
1	この山光る	C	2	二部				B	d’
1	風が運ぶよ	C	3	二部		120	132	d	d’
1	とんぴ	C	4	単旋律		88	96	c	c’
1	山びこコーラス	C	4	単旋律		108	116	c	d’
1	風がよんでる	C	4	合奏付き		108	116	c	c’
1	ヨット	a	3	単旋律		100	108	e	d’
2	友だちはいいな	C	4	二部		104	112	c	e’
2	月の夜	C	4	単旋律		104	112	g	e’
2	プバボ	C	4	二部		120	132	c	d’
2	おどろう楽しいポーレチケ	C	3	合奏付き		120	132	e	e’
2	もみじ	F	4	二部		92	100	c	d’
2	まきばの朝	C	4	合奏付き		126	138	c	d’
3	冬の花	a	3	笛付き		88	96	c	d’
3	冬の歌	G	2	二部		104	112	d	d’
3	茶色の小びん	C	4	合奏付き		144	160	e	e’
3	お日さまにジャンプ	C	4	二部		120	132	e	e’

東書　５年

学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	速度	音域（下限	音域（上限	旋律
1	希望きらきら	C	6	二部		138	152	e	c’	
1	こいのぼり	F	4	単旋律	2	92	100	c	d’	
1	この山光る	C	2	二部		116	126	B	d’	
1	緑の牧場で	F	2	二部		110	120	e	d’	
1	ばらがいっぱい	F	2	輪唱		108	116	B	d’	
1	空を見上げて	F	4	三部	1	126	138	c	d’	
2	星の世界	F	4	三部	2	76?	84?	c	d’	
2	歌はぼくらの友達	C	4	二部		138	152	e	e’	弱起
2	勇気一つを友にして	d	3	二部	2	112	120	d	d’	
2	冬げしき	F	3	二部	2	96	104	c	d’	
2	子もり歌	日	4	単旋律				c	c’	
3	スキーの歌	G	4	二部	2	116	126	d	d’	

東書　６年

学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	速度	音域（下限	音域（上限	旋律
1	越天楽今様	日	4	単旋律				B	e’	
1	おぼろ月夜	C	3	二部		76	84	c	c’	
1	この山光る	C	2	二部		116	126	B	d’	
1	カリンカ	d	2	二部	3	120	132	c	d’	弱起
1	チムチムチェリー	d	2	合奏付	1	56/	60/	d	e’	
1	われは海の子	D	4	単旋律	2	120	132	a	d’	
2	とうげのわが家	F	6	笛付	2	96/	104/	c	c’	弱起
2	友達だから	d	2	二部		84	92	d	e’	弱起
2	さらばジャマイカ	F	4	二部・合奏付		108	116	e	f’	
2	ふるさと	F	3	三部	2	80	88	c	d’	
2	喜びの歌	C	4	三部	2	116	126	d	d’	
3	こきりこ節	日	4	単旋律				c	d’	
3	さようなら	F	4	二部	2	96	104	c	d’	弱起

洲脇範子

教出　１年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	音域（下限	音域（上限
1	1	ちょうちょ	F	2	単旋律		84	f	c’
2	1	ちゅーりっぷ	F	2	単旋律		80	f	d’
3	1	めだかのがっこう	D	4	単旋律		108	f	d’
4	1	こいのぼり	C	3	単旋律	2	120	d	d’
5	1	いとまきのうた	F	2	単旋律	2	78	c	c’
6	1	ころころたまご	C	4	単旋律	1	116	c	c’
7	1	ぞうさん	F	3	単旋律	1	92	c	c’
8	1	ことりのうた	C	4	単旋律	1	104	c	c’
9	1	あかとりことり	F	2	単旋律	1	84	f	c’
10	1	ひらいたひらいた	日	2	単旋律	1	ほどよいはやさ	e	d’
11	1	かごめかごめ	日	2	単旋律	1	ほどよいはやさ	e	b
12	1	かたつむり	G	2	単旋律	1	92	c	c’
13	1	たなばたさま	G	2	単旋律	1	112	d	d’
14	1	うみ	G	3	単旋律	1	88	d	d’
15	1	めりさんのひつじ	C	2	副旋律付き	1	92	c	g
16	1	かめさんのさんぽ	C	2	単旋律		92	c	g
17	2	ぽんぱにあわせて	C	2	単旋律	2	116	d	c’
18	2	ぽんぽこたぬき	C	4	合奏付き	1	132	c	a
19	2	ぶんぶんぶん	C	2	合奏付き		104	c	g
20	2	もりのくまさん	C	2	単旋律	1	120	c	c’
21	2	あいあい	C	4	単旋律		120	c	d’
22	2	まいごのかんがるう	C	2	単旋律	2	108	c	c’
23	2	とことことんのとん	F	4	単旋律	2	116	c	c’
24	2	きらきらぼし	C	4	単旋律	3	112	c	a
25	2	たきび	C	2	単旋律	2	104	c	c’
26	2	おしょうがつ	F	4	単旋律	1	112	f	c’
27	3	たこのうた	C	2	単旋律	1	108	c	a
28	3	たのしいおどり	C	4	副旋律付き	2	120	c	g
29	3	おおきなたいこ	F	2	単旋律	1	72	c	d’
30	3	ひのまる	C	2	単旋律	1	104	c	a
31	3	やぎさんゆうびん	F	2	単旋律	1	120	c	d’

教出　２年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	音域（下限	音域（上限
1	1	きしゃポッポ	F	2	単旋律	2	112	c	d’
2	1	しゃぼんだま	D	2	単旋律	2	84	a	d’
3	1	七つの子	G	4	単旋律	2	92	d	e’
4	1	きしゃ	G	2	単旋律	2	92	d	d’
5	1	山の音楽家	G	2	単旋律		92	d	d’
6	1	かくれんぼ	日	2	単旋律			d	b
7	1	うちゅうせんのうた	C	4	単旋律	2	112	e	c’
8	1	ロケットぱびゅーん	F	4	単旋律	1	138	d	d’
9	1	かっこう	F	4	単旋律	2	126	c	c’
10	1	音のマーチ	F	4	単旋律	3	132	c	d’
11	1	かえるのがっしょう	F	4	輪唱	1	116	f	d’
12	1	とけいのうた	C	2	輪唱	2	104	c	c’
13	1	ツッピンとびうお	C	4	単旋律	1	150	B	c’
14	2	虫のこえ	C	2	単旋律	1	80	c	c’
15	2	きちきちばった	C	4	単旋律	1	112	d	d’
16	2	タンブリンのわ	C	4	単旋律	3	144	c	d’
17	2	はだかの王さま	d	2	単旋律	1	108	d	d’
18	2	汽車ははしる	G	2	単旋律	1		g	d’
19	2	きくの花	C	3	二部	1	112	c	d’
20	2	夕やけこやけ	C	2	二部	2	84	c	d’
21	2	あわてんぼうのサンタクロース	F	2	単旋律	1	104	c	d’
22	2	ジングルベル	F	4	単旋律	2	112	c	c’
23	3	ゆきのじゅうたん	C	4	単旋律	1	96	c	c’
24	3	こぎつね	C	2	二部	2	100	c	c’
25	3	このくつはけば	F	2	単旋律	1	*116	d	d’
26	3	春がきた	C	4	二部	1	120	c	d’
27	3	お花やさん	C	4	単旋律	1	84	d	c’
28	3	春はともだち	C	4	単旋律	1	112	e	c’

教出　３年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	音域（下限	音域（上限
1	1	ピクニック	G	4	単旋律		120	d	d’
2	1	夜明け	E	4	交互唱		132	e	e’
3	1	春の小川	C	4	単旋律	2	104	c	c’
4	1	茶つみ	G	4	合奏付き	2	104	d	d’
5	1	ゆかいなまきば	G	2	二部		96	d	b
6	1	かねが鳴る	F	4	輪唱		100	c	c’
7	1	毛虫が三びき	C	2	輪唱		126	c	c’
8	1	かっこう	F	4	二部		120	f	d’
9	1	南のしまのハメハメハ大王	F	4	二部		126	f	d’
10	1	夏の山	C	4	二部		116	c	d’
11	2	うさぎ	日	2	合奏付き		ほどよいはやさ	d	c’
12	2	夕やけこやけ	日	2	合奏付き		ほどよいはやさ	g	b
13	2	風がリンロン	C	3	合奏付き	2	120	d	d’
14	2	しあわせなのさ	F	3	二部	2	116	c	d’
15	2	おまつり	F	4	合奏つき		116	c	c’
16	2	ごろすけホーホー	d	4	二部	1	76	d	d’
17	2	小さなしらかば	g	4	二部		126	d	d’
18	2	森の子もり歌	C	2	輪唱	2	88	c	c’
19	3	ふじ山	C	4	合奏付き	2	96	c	c’
20	3	すずめがサンバ	D	4	単旋律		132	B	d’
21	3	もしもコックさんだったなら	F	3	二部		*60	c	d’
22	3	大きな歌	F	3	二部		92	c	d’
23	3	春がよんでるよ	e	3	二部		*60	B	e’
24	3	小川	C	3	単旋律		*52	c	c’
25	3	川はよんでる	F	3	二部	2	*52	c	d’

教出　４年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	音域（下限	音域（上限
1	1	友達はいいな	C	4	二部		108	c	e’
2	1	茶色の子ぴん	C	4	二部		144	c	e’
3	1	さくらさくら	日	4	単旋律		126	B	c’
4	1	エーデルワイス	C	3	二部	2	138	e	d’
5	1	ゆかいに歩けば	C	2	二部		120	c	e’
6	1	とんび	C	4	単旋律	2	88	c	c’
7	1	まきばの朝	C	4	二部		132	c	d’
8	1	まきばの子牛	C	3	二部	2	*48	d	e’
9	2	おどろう楽しいポーレチケ	C	3	二部	ロンド	114	e	c’
10	2	秋の歌	F	4	二部	1	112	c	d’
11	2	札幌の空	c	4	二部	2	112	B	d’
12	2	もみじ	F	4	二部	2	92	c	d’
13	2	小ぎつねの歌	d	4	二部	2	132	d	c’
14	2	北風こぞうの寒太郎	E♭	4	二部	2	116	B	e’♭
15	3	雪のおどり	d	2	単旋律		116	d	d’
16	3	一年中の歌	C	6	単旋律		*78	c	c’
17	3	冬の歌	G	2	二部	2	104	d	d’
18	3	おどれサンバ	F	2	二部		104	c	b
19	3	高原の祭り	C	4	単旋律		84	c	d’
20	3	歩いて行こう	C	4	単旋律	2	120	c	d’
21	3	どこかで春が	A	4	二部	2	108	g#	e’

教出　５年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	音域（下限	音域（上限	旋律
1	1	グッデーグッバイ	C	4	二部		112	B	e’	
2	1	おお牧場はみどり	G	4	二部		116	B	d’	
3	1	こいのぼり	F	4	単旋律	2	96	c	d’	
4	1	幸せよぶ夕焼け	a	4	輪唱	小３	104	e	e’	
5	1	鳥の声	F	3	輪唱	小３	*60	f	d’	
6	1	空を見上げて	F	4	二部	1	120	c	d’	
7	1	フラミンゴフラメンゴ	c	3	二部	3	*60	d	e’	
8	1	白い雲	G	3	二部	2	108	d	e’	
9	2	チロルの子守歌	F	6	二部	2	*48	c	d’	
10	2	山のごちそう	G	3	二部	2	116	d	d’	弱起
11	2	子もり歌	日	4	単旋律		ほどよいはやさ	c	c’	
12	2	星の世界	F	4	単旋律	2	92	c	d’	
13	2	冬げしき	F	3	二部	2	100	c	d’	
14	3	スキーの歌	G	4	二部	2	120	d	d’	
15	3	雪の窓辺で	B♭	4	二部	小３	92	c	d’	
16	3	水辺の春	F	4	単旋律	2	88	c	e’	
17	3	はばたけ鳥	C	4	二部	2	96	e	e’	
18	3	ほたるの光	F	4	二部	2	96	c	d’	弱起

教出　６年

	学期	曲名	調子	拍子	演奏形態	形式	速度	音域（下限	音域（上限	旋律
1	1	すてきな友達	G	4	二部		96	B	e’	弱起
2	1	ぼくの飛行機	G	4	二部		140	d	d’	弱起
3	1	おぼろ月夜	C	3	単旋律	2	80	c	c’	弱起
4	1	だれかが口笛ふいた	d F D	4	単旋律		112	d	d’	
5	1	車にゆられて	F	3	単旋律	2	152	c	d’	
6	1	われは海の子	D	4	単旋律	2	126	a	d’	
7	1	船乗りの夢	B♭	4	三部	2	120	d	d’	弱起
8	2	ドナドナ	d	4	二部	3	112	d	c’	
9	2	こげよマイケル	C	4	合奏付き	1	138	c	c’	
10	2	小さな木の実	e	6	二部	2	*66	B	c’	
11	2	ふるさと	F	4	二部	2	80	c	d’	
12	2	まっつ白い心	C	4	三部		104	d	c’	
13	3	越天楽今様	日	4	単旋律		ほどよいはやさ	B	e’	
14	3	ハロー・グッバイ	C	4	輪唱		128	d	d’	
15	3	朝の光	B♭	3	輪唱		120	c	e’	
16	3	家路	C	4	二部		56	c	e’	
17	3	野にさく花のように	D	4	二部	2	116	c	d’	弱起
18	3	あおげばとうとし	E♭	6	三部	2	112	B	e’	
19	3	さようなら	F	4	二部		100	c	D	弱起
20	3	別れの歌	E♭	4	二部	3	112	B	E	弱起

教芸　題材目標　１年

学期	曲名	題材目標	目標	
1	ひらいたひらいた	うたでなかよし	みんなであそびながらうたいましょう	
1	ちゅうりっぷ		えのなかからうたをみつけてうたいましょう	
1	めだかのがっこう		えのなかからうたをみつけてうたいましょう	
1	おちゃらかほい		みんなであそびながらうたいましょう	
1	だるまさん		みんなであそびながらうたいましょう	
1	けんけんぱ	たんたんたんにあわせて	けんけんぱでたのしくあそびましょう	
1	じゃんけんぽん		みぶりをしながらたのしくうたいましょう	
1	ことりのうた			
1	ぶんぶんぶん		みつばちになったつもりでうたいましょう	
1	ぱすぱすはしる	たんたんたんにのって	がっきでたのしくあそびましょう	
1	どんぐりさんのおうち			
1	かたつむり		うたにあわせてがっきをうったりふいたりしましょう	
1	しろくまのじょんか		たのしくうたったりおどったりしましょう	
1	たなばたさま	けしきをおもいうかべて	ほしにはなしかけるようにうたいましょう	
1	うみ		あかるくのびのびとうたいましょう	
2	すずむしのでんわ	どれみでうたって	どれみであそびましょう	
2	ひのまる		どれみでうたったりがっきをふいたりしましょう	
2	とんくるりんぱんくるりん	とんたんにわかれて	うたいながら　とんや　たんを　うちましょう	リズム
2	ぞうさんのさんぽ		ぞうさんになったつもりでうたいましょう	
2	きらきらぼし	いいおとみつけて	きれいなおとでおほしさまによびかけましょう	発声
2	タンブリンのわ		リズムにのってならしましょう	リズム
2	たきび	よびかけあって	きもちをこめてうたいましょう	
2	ぺんぎんさん		はなしかけるようなきもちでうたいましょう	
2	おしょうがつ			
3	三びきのこぶた	おはなしをおんがくで	うたったりおはなしをしたりしてあそびましょう	
3	もりのくまさん		もりのでごとをたのしくうたいましょう	
3	こいぬのマーチ	いろいろながっきで	たのしくがっそうしましょう	拍子
3	ふしぎなぽけっと	あかるいこえで	うたにあわせてすきなリズムをうちましょう	リズム
3	うれしいひなまつり			
3	そろそろはるですよ		やさしいきもちでうたいましょう	

教芸　題材目標　２年

学期	曲名	題材目標	目標	
1	手と手であいさつ	うたでなかよし		
1	かくれんぼ		よびかけあってうたいましょう	
1	かっこう	ドレミでうたって	うたったりがっきでひいたりしましょう	
1	かえるのがっしょう		ドレミをけんばんでひきましょう	和声
1	シャボンだま			
1	ぞうさんとこりす	タンやタタで	いろいろながっきとあそびましょう	
1	ともだちのうた		たのしくうたったりひいたりしましょう	
1	山びこごっこ	ふしをまねて	山びこのようにうたいましょう	
1	木のはのゆうびん		ふしをおいかけてうたいましょう	発声
2	虫のこえ	いい音見つけて	いろいろな虫の声をまねしましょう	
2	あさの小とり		かわいいとりの鳴き声をみつけましょう	音色
2	ジャングルジム	リズムにのって	たのしくうたいましょう	
2	山のポルカ		リズムばんそうにのってうたいましょう	
2	ダやけこやけ	ようすをおもいうかべて	きれいなこえでうたいましょう	発声
2	小ぎつね		小ぎつねの気もちになってうたいましょう	
2	きくの花			
2	おむすびころりん	おはなしを音がくで	うたったりおはなしをしたりしてあそびましょう	
2	あわてんぼうのサンタクロース		たのしくうたいましょう	
3	なかよしマーチ	いろいろながっきで	いろいろながっきでがっそうしましょう	
3	たぬきのたいこ		リズムばんそうをつくりましょう	
3	こぐまの二月		すきながっきで演奏しましょう	和声
3	はしの上で		二つのふしをいっしょにうたいましょう	和声
3	春がきた	あかるいこえで	あかるくのびのびとうたいましょう	発声
3	春っていいね			

洲脇範子

教芸　題材目標　３年

学期	曲名	題材目標	目標	
1	ドレミの歌	歌と友だち		
1	春の小川		明るい声で歌いましょう	
1	いもむしごろごろ	こんにちはリコーダー		
1	雨こんこん			
1	ゆかいなまきば		歌に合わせてふきましょう	
1	夕やけ			
1	花をおくろう	ふしをドレミで	ドレミの歌い方になれましょう	
1	ごろすけホーホー		ドレミで歌ったりがっきでえんしうしたりしましょう	
1	ゆかいな木きん			
1	かえるのぴょんた	リズムにのって	ふしをおいかけて歌いましょう	
2	かりかりわたれ			
2	うさぎ	ようすを思いうかべて	やさしい気持ちで歌いましょう	
2	こねこと小鳥		明るい声で楽しく歌いましょう	
2	ふじ山	ふしのながれをかんじて	気もちをこめてのびのびとうたいましょう	
2	あの雲のように		なめらかに歌ったりふいたりしましょう	
2	かぼちゃ	がっきを合わせて	いろいろな音をかさねてあそびましょう	
2	歌えリコーダー			
2	あわてんぼうの歌		リズムにのってがっそうしましょう	
2	いるかはざんぶらこ	ひょうしをかんじて	ひょうしをからだで感じて歌いましょう	拍子
2	夕日			
3	おばけなんてないさ	お話を音楽で	気もちを考えながら歌いましょう	
3	おかしのすきなまほう使い		つくった音を入れて楽しく歌いましょう	
3	雪のおどり	ふしをかさねて	ひびきをきき合いながら歌いましょう	
3	山の音楽家		リコーダーといっしょに楽しく歌いましょう	
3	さよなら	ひびきのある声で		
3	春のまきば		二つのふしを合わせて歌いましょう	和声

教芸　題材目標　４年

学期	曲名	題材目標	目標	
1	歌うよ春を	歌と友だち		
1	さくらさくら		美しいさくらが一面にさいたようすを思いうかべて歌いましょう	発声
1	とんび	いろいろな歌い方で	なめらかな歌い方になれましょう	
1	アマリリス		はずむような歌い方になれましょう	記号
1	山の朝	ようすを思いうかべて	さわやかな気分で歌いましょう	
1	まきばの朝		明るい声でのびのびと歌いましょう	
1	みんなのゆめを	ふしのまとまりを感じて	明るく生き生きと歌いましょう	
2	いろんな木の実	ひょうしを感じて	四ひょうしを感じて歌いましょう	拍子
2	おどろう楽しいポーレチケ		三ひょうしを感じて歌いましょう	拍子
2	もみじ	ふしを重ねて	おたがいのふしをきき合って歌いましょう	発声
2	地球はぼくのにわ		二つのふしを合わせてみましょう	和声
2	雨の公園			
2	茶色の小びん	楽器を合わせて	楽器を組み合わせて楽しく合そうしましょう	和声
2	音のカーニバル		集めた音で合そうしましょう	
2	まいごのこひつじ	ハ長調とイ短調	短調のひびきを感じ取りましょう	調子
3	ちびっこカウボーイ	お話を音楽で	場面を思いうかべて歌いましょう	
3	つるのおん返し		音楽でお話を進めましょう	
3	冬の歌	リズムにのって	けいかいなリズムにのって歌いましょう	リズム
3	線路はつづくよどこまでも		気持ちよくはずんで歌いましょう	
3	ティンティララ	ひびきのある声で	ひびきをきき合いながら歌いましょう	和声

教芸　題材目標　５年

学期	曲名	題材目標	目標	
1	春の風			
1	こいのぼり		大空におどるこいのぼりの様子を思いうかべて歌いましょう	リズム
1	夕日はルラルラ		低音をききながら演奏しましょう	和声
1	口ぶえふいて		低音のひびきを感じながら歌いましょう	和声
1	こげよマイケル		美しい和音のひびきをつくりましょう	和声
1	静かにねむれ		和音のひびきのうつり変わりを感じ取りましょう	和声
1	ゆかいに歩けば		まとまりを感じながら生き生きと歌いましょう	形式
1	キャンプの夜			
2	だれも知らない		へ長調の読み方になれましょう	調子
2	林の朝			
2	星の世界		とけ合ったひびきで歌いましょう	発声
2	まっかな秋			
2	冬げしき		様子を思いうかべてのびのびと歌いましょう	
2	スキーの歌		様子を思いうかべて生き生きと歌いましょう	
3	かさじぞう		場面を思いうかべて歌いましょう	
3	ゆかいなゆめ		六ひょうしの流れにのって歌いましょう	拍子
3	子もり歌		日本のふしの感じを味わいましょう	

教芸　題材目標　６年

学期	曲名	題材目標	目標	
1	青空へ登ろう	ひろがれ歌の輪		
1	おぼろ月夜		景色を思いうかべながら気持ちをこめて歌いましょう	
1	エーデルワイス	ひょうしとリズム	三ひょうしにのってのびのびと歌いましょう	拍子
1	アンデスの祭り		曲に合う速さを見つけて演奏しましょう	速度　音色
1	こきょうの人々	和音のひびき	和音のひびきの移り変わりを感じ取りましょう	和声　リズム
1	それは地球		美しい和音のひびきをつくりましょう	和声
1	われは海の子	歌の気持ち	歌詞の内容を理解し気持ちをこめて歌いましょう	
1	かいがらの歌			
1	夢をのせて	へ長調とニ短調	短調と長調のちがいに気づいて歌いましょう	調子
2	小さな木の実	曲のまとまり	曲の感じの変化を生かして歌いましょう	強弱
2	星空はいつも		ふしの変化やくり返しを感じて歌いましょう	形式
2	ふるさと	独唱・重唱・合唱	とけ合ったひびきで歌いましょう	和声
2	菖犬案今様	日本のふし	ふしの感じや音のひびきを味わいましょう	音色
2	こきりこぶし		日本の民謡に親しみましょう	
2	勇気一つを友にして	物語と音楽	場面を思いうかべて歌いましょう	
2	さよなら友よ	心を結ぶ歌声	気持ちをこめて歌いましょう	

第四章　まとめと今後の課題

１、まとめ

「指導にあったては、系統性のある指導ができるように、学年間の関連を明確にした指導計画をすることが大切である。」と指導書に書かれているにも関わらず、音楽科教育には系統性は持たせにくく叫ばれている割に曖昧になっていることが分かった。

これまで教科書歌唱教材を様々な観点から分析してきたが、総括すれば以下のようなことがいえる。

第一に

音符、休符及び記号の理解のような知識的な内容を音楽理論に従って系統立てること

第二に

リズム・拍子・調などの複雑なものを順次取り上げること

第三に

強弱感・速度感に関して系統立てること

第四に

教科書の記譜法と指導内容の不一致についての是正

カリキュラムが与える音楽的な経験はそれぞれの段階で成長する最大限まで刺激しなければならない。

２、今後の課題

教科書不要論や現代音楽の教材化がさけばれる中、教科書の教育的立場はますます低くなっている。林光は「教師が音楽家であるならば教科書は不必要だ」注12と言っているがそのようにわが身に自信をもって「わたしは音楽家である」といえる人は小学校の教師にどれほどいるであろうか。音楽科教育を研究する者は音楽に秀でている人であったり、音楽が好きであったりする人が多いはずである。従って教科書なしでも授業はできる音楽のプロフェッショナルたちばかりが研究をしていることになる。音楽科教育の根本問題はここにもあるのではないだろうか。最も問題の中心的な人物不在の研究は、子ども不在の教育とまた同じ様な意味をもっているように思われる。

小学校教育においては一人の教師がいくつもの教科を教えなければならない。そのため音楽を苦手とする教師も音楽を教えなければならないのである。そのためにも教科書は教育内容の系統的設定など、まだまだ様々な課題を抱えているといえる。

本研究では教科書歌唱教材の問題点を何点か探り出した。筆者が今後教科書作成をするというようなことはできないが、これらの問題点に積極的に取り組んでいきたいと思っている。

注12　野村　幸治他著：「音楽教育を読む」（音楽之友社　１９９５）

【参考文献一覧】

（1）Ｊ．Ｌ．Ｍｕｒｓｅｌ著　美田　節子訳：音楽教育と人間形成、音楽之友社、１９６７年

（2）Ｊ．Ｌ．Ｍｕｒｓｅｌ著　美田　節子訳：音楽的成長のための教育、音楽之友社、１９７１年

（3）Ｊ．Ｌ．Ｍｕｒｓｅｌ他著　供田　武嘉津訳：音楽教育心理学、音楽之友社、１９６５年

（4）ロザムンド・シューター著　貫　行子訳：音楽才能の心理学、音楽之友　社、１９７７年

（5）大畑　祥子著：子どもと音楽　第２巻　子どもの発達と音楽、同朋社、１９８７年

（6）浜野　政雄著：子どもと音楽　第３巻　子どもの生活と音楽、同朋社、１９８７年

（7）森脇　憲三著：音楽教育の方法論ー音楽科学習指導の成立と展開ー、全音楽譜出版社、１９７９年

（8）ルードルフ．Ｅ．ラドシー他著：音楽行動の心理学、音楽之友社、１９８５年

（9）フルト・ザックス著：音楽の起源、音楽之友社、

（１０）淺香　淳：真篠将　音楽教育を語る、音楽之友社、

（１１）千蔵　八郎：基本　音楽史、音楽之友社、１９６８年

（１２）ヤーブ・クンスト著　福田　昌作訳：音楽の源泉、音楽之友社、１９７０年

（１３）マイクルＬ.マーク著　松本ミサヲ訳：音楽教育の現代化、音楽之友社、

（１４）西澤　昭男著：音楽教育の原理と実際、音楽之友社、１９８９年

（１５）供田　武嘉津著：音楽教育学、音楽之友社、１９７５年

（１６）梅本　尭夫著：音楽心理学、誠信書房、１９６６年

（１７）キース・スワン　ウィツク著　野波　健彦訳：音楽と心と教育、音楽之友社、１９９２年

（１８）R．ダグラス．グリーア著　石井　信生訳：音楽学習の設計、音楽之友社、１９９０年

（１９）小山　章三著：合唱と教育と、音楽之友社、１９８２年

（２０）文部省：小学校学習指導書（音楽編）、教育芸術社、１９８９年

（２１）文部省：小学校指導資料　新しい学力観に立つ音楽科の学習指導の想像、教育芸術社、　１９９３年

（２２）市川　都志春著：「小学生の音楽１～６」、教育芸術社、１９９１年

（２３）湯山　昭著：「新しい音楽１～６」、東京書籍社、１９９１年

（２４）三善　晃著：「新版　音楽１～６」、教育出版社、１９９１年

（２５）野村　幸次他著：音楽教育を読む、音楽之友社、１９９５年

（２６）「教育音楽（小学版）」、音楽之友社、１９９５年

（２７）鈴木　寛：「Ｓ．Ｍ．Ｌ．の音楽科教育」、兵庫教育大学学校教育学部附属実技教育研究　第９号、１９９５年

おわりに

現場の教師ではない者が、教科書歌唱教材の問題点と題して音楽科教育の問題点等にもふれながら論を進めていくにはいささか筋違いではなかろうかと考えながらも、何とかここまでこぎつけることが出来ました。

研究などといった高尚な言葉には全く縁のなかった筆者でありますが、今になってやっと一つのことを一つの信念をもって調べたり考えたりすることのおもしろさが分かったような気がします。また、今回の論文ではコンピュータをいろいろと使いこなさなくてはならなくてはじめは大変戸惑っていましたが、コンピューターを少しでも知ることが出来たのではないかと満足感でいっぱいです。

本研究においては多くの方々のご助言、ご協力をいただきました。

本学の松本ミサヲ先生には、貴重な資料ならびにご意見をいただき、ありがとうございました。また、多くのご助言をいただきました同ゼミの青井先生、丸中先生、佐藤先生、橋本先生、来嶋さん、に心よりお礼申し上げます。またいつも心の支えとなってくれた、藤田さん、藤本さんにもお礼申し上げます。

最後になりましたが、本研究にあたって暖かい御指導、ご助言を与えてくださった鈴木寛先生に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

平成８年　１月22日

洲脇　範子